



開会にあたり挨拶する山崎善也会長

千葉県成田市で令和初の総会
千葉県成田市で令和初の総会には、加
盟自治体の首長や議長、関係
職員のほか、来賓として世界
連邦推進日本協議会の野田武
会長、山崎善也・綾部市長
が出席した。

志事務局長らを招き、約20人
が出席した。
挨拶に立った山崎会長は、
現在の世界情勢について、
「緊張が高まりつつあり、一
つの国による『核』の管理の
限界があらわになってきてい
る」と述べ、「世界連邦を実
現する信念を持った我々が、
行動を示していく必要がある」
と訴えた。

また、今夏綾部市で実施し
た12回目の中東和平プロジェクト
について触れ、「希望が
ある限り平和は訪れると確信
している」と述べた。

開催市である成田市の小泉
院国際診療科・部長、国際救
研修会では、成田赤十字病

の令和元年度総会が、8月23日、千葉県成田市で開かれ、役員
改選では山崎善也会長など役員全員の再任が決まった。
令和初となる総会には、加
盟自治体の首長や議長、関係
職員のほか、来賓として世界
連邦推進日本協議会の野田武
会長、山崎善也・綾部市長
が出席した。

挨拶に立った山崎会長は、
現在の世界情勢について、
「緊張が高まりつつあり、一
つの国による『核』の管理の
限界があらわになってきてい
る」と述べ、「世界連邦を実
現する信念を持った我々が、
行動を示していく必要がある」
と訴えた。

また、今夏綾部市で実施し
た12回目の中東和平プロジェクト
について触れ、「希望が
ある限り平和は訪れると確信
している」と述べた。

議事では、昨年度の事業・
決算報告、令和元年度の事業
計画・予算、役員改選及び規
約の改正について原案どおり
承認・決定した。

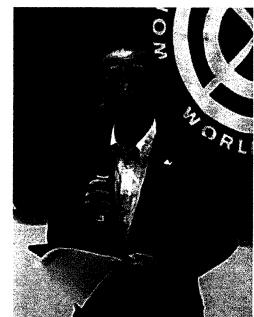
院国際診療科・部長、国際救
研修会では、成田赤十字病

山崎会長が5回目の再任 千葉県成田市で令和初の総会

いま、一つの世界を

自治体協新聞

発行
世界連邦宣言自治体
全國協議会
(事務局=京都府綾部市)
〒623-8501綾部市若竹町8-1
TEL (0773) 42-4217
FAX (0773) 42-4406



成田市・小泉一成市長

一成市長は「昭和33年に世界
連邦平和都市を宣言した平和
のまち。今後も平和な世界の
実現を目指して取り組んでい
たい」と挨拶した。

世界連邦推進日本協議会の
海部俊樹会長からは「軍事力
ではなく、世界法による平和
を打ち立てる世界連邦運動に、
さらに関心をもって取り組ん
でください」と希望します」と
祝辞が寄せられた。

また、今年で設立70周年を迎える世界連邦日本国会委員
会の衛藤征士郎会長からは
「世界連邦宣言自治体全国協
議会と連携しながら努力する」
との祝辞が谷本事務局次長か
ら伝えられた。

ユニセフ・UNHCR
に寄託
世界連邦宣言自治体
全国協議会が呼びかけ
て実施した「世界平和
と難民救済のための自
治体職員1人100円
募金」は、平成30年度
分として、157自治
体から計5,143,6
36円が集まり、世界
連邦推進事業基金積立
のほか、本年7月4日に
国連UNHCR協会と
日本ユニセフ協会へ50
万円ずつを寄託した。
これらは、紛争や迫
害で祖国を追われた人
や、飢えと病気・貧困
に苦しむ子どもたちの
救済に活用されます。

取り組みは昭和61年
度から継続的に実施し
ている。

海外滞在中のエピソードを
もとに、言語・文化・宗教・
習慣など、増え続ける外国人
患者への対応の課題などを紹
介。成田赤十字病院の国際活動」と題して講演。



浅香朋美氏

介。「世界平和の実現には想
像力が必要」と訴えた。

自治体職員一人100円募金 ご協力ありがとうございました

役職名	自治体名
会長	綾部市(京都府)
	武藏野市(東京都)
	金沢市(石川県)
	焼津市(静岡県)
	成田市(千葉県)
	青梅市(東京都)
	小金井市(東京都)
	福生市(東京都)
	輪島市(石川県)
	宇治市(京都府)
	兵庫県(兵庫県)
	神戸市(兵庫県)
	岡山市(岡山県)
	広島市(広島県)
	松山市(愛媛県)
	新居浜市(愛媛県)
監事	三鷹市(東京都)
	亀岡市(京都府)

※首長名は割愛しています。

中東和平プロジェクト 綾部市で3回目の実現！

8月14~20日の日程で、「中東和平プロジェクトin綾部」（主催=中東和平プロジェクト綾部市実行委員会、後援=外務省・京都府）が開催された。

「中東の和平は世界の平和に通じる」との理念から2003年に綾部市で始まり、現地の紛争で親族等を亡くした若者らを招き交流を行ってきた当プロジェクトは、昨年の龜岡市開催以来、全国で12回目。綾部市では3回目の実現となった。

当協議会としても、全国の自治体職員からの募金を財源とする交付金を交付するなど世界の恒久平和実現の中核事業として支援を行っている。



想定外のプログラム 変更

7月に招へいする8人のメンバーがようやく決まり実現した今回のプロジェクトは、想定外の変更が続いた。

現地出発予定の13日、パレスチナ側の4人が手続き上の問題で搭乗できず空港で足止めに。イスラエル側の4人のみが14日夕刻に無事到着し、

綾部市役所を表敬。ホストファミリーとの対面を果たした。

その頃、日本では台風10号が襲来。翌15日に予定していた綾部市民平和祈願の集い、盆踊りなどのイベントがやむなく中止となつた。

1日遅れで現地を立ったパレスチナ側は台風の影響で成田国際空港に到着。新幹線等を経由し綾部で合流したのは15日の夜中23時過ぎ。出発から丸3日が経っていた。



ホームステイ先で浴衣の着付け体験を行う参加者

双方が揃ってのホームステイ体験はわずか1泊2日のみとなつたが、限られた時間の中でホストファミリーを含めた交流を行つた。

また、イスラエル側の代表で2016年の高野町プロジェクトにも参加していた、イ



市民大会で挨拶する山崎善也・綾部市長（大会実行委員長）

市民を前に力強く アピール

山東昭子 参議院議長 らと面会

綾部市での最終日となる16日には約150人が出席し、市民大会が開催された。

実行委員長の山崎善也・綾部市長は、「このプロジェクトの小さな取組が、大河の一滴であっても、世界の恒久平和の実現に向けた一步となることを願う」と挨拶。8人の参加者はそれぞれの体験や思いを力強く訴えた。

パレスチナ側の代表、ムハンマド・アブジャファル氏は、「紛争遺族会でのイスラエル人との交流を通じて、彼らも同じ人間だと気付いた。戦争

から復興を遂げた日本は、私たちの手本」と述べた。

タイ・レシエム氏は、「多くの困難を乗り越え、揃ってここに立てたことは光栄。いつかイスラエルとパレスチナの紛争が『過去のもの』と言える日が来ることを願う。」と語った。

一行は、16日から2日間、亀岡市の大本本部に宿泊。17日に京都市内で観光施設等を見学した後、18日に貸切バスで東京へ移動。19日には、参議院議長公邸で山東昭子議長、外務省で山田賢司大臣政務官とそれぞれ面会し、紛争遺族会の取組などについて紹介。

参加者への激励、当プロジェクトについての高い評価を受けた。

翌20日で全行程を終え帰国



山東昭子・参議院議長を取り囲む参加者ら

世界連邦推進事業交付金の申請は12月末まで

当協議会では、加盟自治体等が行う世界連邦推進事業に対する交付金制度を平成23年度に創設しています。

この交付金を受けるには、「世界連邦」を標榜し、この交付金を受けている旨を表示していること、他の補助金等を受けていないことなどが条件で、交付金の額は、交付対象経費の10分の10以内。限度額は50万円となっています（申請期限は、事業実施年度の前年12月末まで）。